

MBTI を用いた早期リスク特定

PM コース 矢吹研究室 1442085 中村真悟

1. 研究の背景

プロジェクトマネジメントとはヒト・モノ・カネ・資源を管理することである．この中で最もプロジェクトに関わり，かつ対処が確立しにくいのはヒトであると私は考える．

プロジェクトの定義においてメンバは固定されない．毎回初対面のメンバが必ずいるといっても過言ではない．ならば、プロジェクトマネージャがより早くメンバのことを，人間の特徴を把握することができればより良いマネジメントができるのではないか．

ユングの類型論を発展させた MBTI[1] というものがある．人の考え方を

- 内向：I・外向：E
- 感覚：S・直感：N
- 思考：T・感情：F
- 判断的態度：J・知覚的態度：P

の 4 指標の組み合わせで 16 タイプに分類するものである．この技法はキャリアカウンセリングやリーダーシップ開発，チームビルディングなどに使われることが多い [1]．

この MBTI を用いて，プロジェクトのメンバの大まかな性格を理解し，メンバの相互作用が原因となって起きる事象を予測したい．以上のことから本研究では MBTI を用いて，プロジェクトを円滑に遂行する方法を研究する．

2. 研究の目的

本研究の目的は，チームメンバの MBTI の 16 タイプの相互作用がプロジェクトにどのような影響をもたらしているのかを調べる．この結果から，MBTI のタイプに基づいてメンバ間で発生しやすいリスクを特定できるすることである．

3. プロジェクトマネジメントの関連

本研究は，PMBOK におけるリスク・マネジメントに該当する．MBTI は自己理解メソッドであり自己成長を促すため，人的資源マネジメントにも関連している．また，MBTI はチームビルディングに用いることができる．さらにはメンバ間の円滑なコミュニケーション向上が期待できるため，MBTI はコミュニケーションマネジメントに応用できる．

4. 研究方法

以下の手順で研究を進める．

- ソフトウェアコースの PM 実験を受講する学生に対し，MBTI の性格検査を行いタイプを調査する
- その学生に対し，アンケートを行い実際にどのような事象が起きたか調査する
- アンケートの結果と個人のタイプでどのような関連があるのかを考察する

5. 現在の進捗状況

上記の手順で、PM 実験のソフトウェアコースを受講していた学生 38 人に MBTI 診断とアンケート調査を行った。MBTI 診断の結果は表 1 の通りである。今回診断した学生 38 人で、16 タイプ中 13 タイプがいた。

表 23 は 2 × 2 集計表での相関関係を求めたものである。集計表は実際の生データを集計したものである。期待度の表は集計表の合計の結果をもとに算出された値である。この値は帰無仮説に基づいた 2 つの相関がない場合の値となる。値 Z とは集計表と期待度のずれを計算したものである。この値 Z の 5 % を下回るのであれば帰無仮説は棄却される。この表において、p が値 Z の 5 % を下回るため、相関があるということになる。

思考 (T) 型：情緒 (F) 型と「話し合いの場では自分から進んで発言した」という質問 (表 2) では値 Z の 5 % の棄却域にあたる 0.04 を出したため、相関がある。この結果から「質問の回答と T・F の相関はない」と言える。同じように規範 (J) 型：柔軟 (P) 型と「情報共有は問題なくできていた」という質問 (表 3) でも同様に相関があると言える。

タイプ	人数
INFP	4
ESTP	4
ENTP	4
ISTP	3
ISFP	3
ISFJ	3
ESFP	3
ESFJ	3
INTP	3
ESTJ	3
INFJ	2
ENFJ	2
ENTJ	1
ISTJ	0
INTJ	0
ENFP	0
合計	38

図 1 MBTI 結果

集計表	T	F	計
はい	18	16	34
いいえ	0	4	4
計	18	20	38

値 Z	4.0235294
-----	-----------

期待度	T	F	計
はい	16.1053	17.8947	34
いいえ	1.8947	2.1053	4
計	18	20	38

値 p	0.0449
-----	--------

図 2 T・F と進んで発言したのクロス集計

集計表	J	P	計
はい	13	15	28
いいえ	1	9	10
計	14	24	38

値 Z	4.2022959
-----	-----------

期待度	J	P	計
はい	10.3158	17.6842	28
いいえ	3.6842	6.3158	10
計	14	24	38

値 p	0.0404
-----	--------

図 3 J・P と情報共有は問題なくできていたのクロス集計

6. 今後の計画

以下の手順で計画を進める。

- 今回のアンケート結果を踏まえ、アンケートの項目を増やす
- PM 演習を受講する学生に対し同様の方法でアンケートを行い検証する。
- PM 演習の間 3 回、発表後 1 回アンケートを行う。

参考文献

- [1] タイプ別性格診断. <http://www.secret.ne.jp/~delmonte/> (2016.7.23 閲覧)。
- [2] 正夫坂内、一郎 (通信・ネットワーク工学) 佐藤、知之古谷、和男矢野、雅夫桑原、武今井、功上田、直人松本、亮二森。ビッグデータを開拓せよ：解析が生む新しい価値。角川インターネット講座, No. 07. KADOKAWA, 2015。
- [3] 友佳杉浦。1-5 レスキュー・マネジメントのためのストラテジック・チーム・ビルディング論。プロジェクトマネジメント学会研究発表大会予稿集, Vol. 2001, pp. 20–25, mar 2001。
- [4] 啓太板倉。ルーブリック評価を利用した pbl における学習到達度の測定。mar 2015。
- [5] 梢北村。Csi による人格分類がグループディスカッションへ及ぼす影響。平成 27 年度プロジェクトマネジメント学科卒業論文概要集, Vol. 2015, pp. 11–12, mar 2015。